

<特別寄稿>中国における作文指導

著者	鄭 友霄
雑誌名	人文学教育研究
巻	45
ページ	1-7
発行年	2018-12-25
URL	http://doi.org/10.15068/00155495

特別寄稿

中国における作文指導

鄭 友 霄

中国において、日本の国語科に相当する科目は、「語文科」と呼ばれている。語文科が独立した学科として設立されたのは1903年である。

1930年代から、中国の語文科教材では、白話文^①を用いた読むことと書くことの学習が始まった。当時の「語文科教育専門家」と思われている学者はほとんどが作家、文学家の出身であるため、中国近代の作文教育は文学の色彩が強いわけた。もちろん、彼らは生徒の現実的な事情を考え、文学創作というより、文学的で短い文章、つまり「鳳凰の頭、豚のお腹、豹の尻尾」(始めは鳳凰のように華麗で、中は豚のお腹のように豊富、充実。最後は豹の尻尾のように力強い)のような文章を書かせていた。このような伝統的な作文理念は現在でも作文教育に深く根付いている。

1930年代の教科書は『国文教科書』と呼ばれ、教材は「文章作法」の指導事項を手掛かりにし、単元を組んでいた。単元は一つの指導事項を主題にし、その主題と関わったテキストと作文の題目を配置していた。たとえば、「風景を描写する技法」を主題とした単元には、劉劭の「大明湖」、冰心の「慰冰湖畔」、朱自清の「樂声灯影的秦淮河」など十数篇の風景を描写したテキストと、「虎丘山下」、「吳淞港口」、「松濤」、「溪流」など八つの作文の題目があった。

60年代以降、作文教育の内容中心が文種の学習になり、書く文章の文種は記叙文、説明文、議論文に限られるようになった。

「記叙文」を例にして説明してみよう。記叙文は記述や叙述の表現手法を用いた文種で、主に「人物を描写する」文章と「事件を記述する」文章に分けられている。人物を描写する文章に関しては、外見描写、動作描写、対話描写、心理描写などの技法があり、人物の特徴を描き出すための材料選択、場面の描写などの練習もある。一方、事件を記述する文章に関しては、記述の人称、順序、手がかり、特に記述の六要素と呼ばれている「時間、場所、人物、事件の原因、経過、結果」についての指導が多い。これらの内容は文種の学習というより、文種学習のための技法練習といっても過言ではない。その意味では、60年代以降の作文教育も技法中心であり、作文教育の内容と方法は大きく変わっていない。

2001年、新しい語文科課程標準^②が公表された。作文教育における文種の取り扱いがあまりにも杓子定規という指摘を受け、文種意識を薄め、本当のこと、ありのままの生活を書こうということが唱えられるようになった。

現行の中学校語文科教科書を例にとるならば、以下のような作文教材がある。

この教科書について説明する。2017年の秋から、中国における語文科の教科書は統一された。全国統一で、一つの教科書を使う。この教科書は中国教育部が編集し、人民教育出版社が出版す

る。略して「部编版」語文教科書と呼ばれている。

この表は例として、中学校一年第二学期の作文教材を挙げている。

表1 中国における中学校語文科教科書の作文教材例

訓練内容	知識指導	作文の題目
1, 人物の精神を描く	1, 典型的な細部をつかむ 2, 文章の技法を使う (対比, 引き立つなど) 3, 議論, 抒情の手法を使う	1, 「私の友達」を題目に, 200字ぐらいの段落を書く。 2, 「論争」を題目に, 500字の文章を書く。 3, 「こんな人に私は〇〇した (感動, 尊敬など)」を題目に, 500字の作文を書く。
2, 抒情を学ぶ	1, 直接抒情 2, 間接抒情	1, 感情を表す段落を書く。 2, 「故郷への思い」を題目に, 500字の文章を書く。 3, 「私の悩み」を題目に, 文章を書く。
3, 細部をつかむ	1, 真実 2, 典型 3, 生き生きとする	1, 「〇〇のあの時 (喜び, 興奮, 気まぐれなど)」 2, 「写真の中の話」を題目に, 文章を書く。
4, 材料の選び方を学ぶ	1, 主旨をめぐって材料を選ぶ 2, 材料の真実さと斬新さに気を付ける	1, 「うちのクラスの「スター」」を題目に, 文章を書く。 2, 「私の一日」を題目に, 文章を書く。
5, 「文従字順」 ^⑨	1, 適切な言葉を選んで表現し, 幾とおりもの語義 (解釈) を避ける。 2, 語句の間の関係性に気を付ける。 3, 書き終わったら読んでみてください。	1, 景色を描く段落書く。 2, 景色を描写することを通じて感情を表す散文を書く。 3, 「月」を題目に, 文章を書く。
6, 簡潔な言葉で書く	1, 主旨をめぐって文章を書き, 余計なものは書かない。 2, 言葉の重複に気を付ける。 3, 文章の中にたくさんの不必要な美辞麗句を用いることを避ける。	1, 提示した段落を修正する。 2, あるテキストの主旨を簡潔にまとめる。 3, 科学技術について調べ, 想像作文を書く。

「訓練内容」というのは作文単元の題目で, 「知識指導」は本単元の学習重点である。そしてそれぞれの単元において, 練習として生徒に書かせる作文の題目はいくつか設定されている。

現行の中学校語文科教科書における作文教材は, 記叙文, 説明文などの文種との関係性が薄くなり, 20世紀60年代以前の技法中心の方針へ回帰しているに見える。もちろん, 現在の練習題目は以前より生徒の生活に近づいているが, 「作文を書くために作文を書く」という問題はまだ残されている。

20世紀末に行われた, 中国語文教育に関する大論争において, 技法中心ではなく, より生活の応用を重視する作文学習の内容を構想した学者たちもいた。たとえば, 浙江師範大学の王尚文教授が監修した中学校語文科教科書 (1998年出版) において, 中学校一年第一学期の言語実践活動は

以下の通りである。

- ①担任の先生に自己紹介の手紙を書いてください。
- ②新しい友達に学校から自分の家までの道順を説明し、自分の家に誘ってください。
- ③クラスのことと関わる様々な仕事のうち、どのような仕事に担当の専任者が必要だと思いますか。そしてあなたは自分がどの仕事の担当専任者に適していると思いますか。クラス委員に自分を推薦する手紙を書いてください。
- ④日曜日に、友達の家遊びに行っていたが、彼は家にいなかったため、メッセージを書いてください。
- ⑤電話をかけることはできますか？電話で話すことをシミュレーションしてください。
- ⑥病気にかかった時、お医者さんにどのように病状を説明したらよいでしょうか。
- ⑦見たことのある広告、標語、看板などにおける正しくない文字を記録し、責任者に手紙を書く。
- ⑧あなたは入院したクラスメートや友達を見舞うとき、何と言いますか？あるいはあなたが入院し、友達が見まいに来るとき、あなたは何と言いますか？グループに分けてシミュレーションしてください。

しかし、この教科書は中国の事情により、検定は通ったが教材として使われたことはなかった。一方、中国の高校入学試験、および大学入学試験において、語文科の試験では、作文は三分の一以上の点数を占めている。したがって、現場の教師がどのように作文の部分で高い点数を取るかについても常に考えている。これらの考えは実際の作文指導にも影響を与えている。

試験では、どのような題目があるかという点、浙江省台州市の高校入学試験における作文の題目を例にして説明する。

・2012年 「私は覚えている」をタイトルにして作文を書いてください。

・2013年 課題文を読み、「これで足りる」「これでは足りない」の中から一つを選んでタイトルにし、作文を書いてください。

課題文：

あなたはお金持ちではないかもしれないが、温かい家庭があるからそれで足りる。あなたは賢くはないかもしれないが、頑張る気があるからそれで足りる。あなたは特に秀でるわけではないかもしれないが、生活を愛する心があればそれで足りる…

あなたは人の話に従順であるが、それでは足りないかもしれない。あなたは一定の成果を得たが、それでは足りないかもしれない。あなたは美しい夢があるが、それでは足りないかもしれない。

・2016年 課題文を読み、自分で視点を選び作文を書いてください。

課題文：

私は生活の中で、大変難しいことに会うとき、「急がないで、よく考えてください」という励ましの言葉ももらうことがある。そして、非常に簡単なことをやる時も、「急がないで、よく考えてください」という注意の言葉を聞くことがある。

そして、採点の基準も見てみよう。満点が50点で（語文科の試験の満点は150点）、五つのレベルで評価する。そのうち、

第一レベルでは：

作文の内容は題目の要求にふさわしく、感情が真摯で、思想が健康で、内容が豊富で、主旨が明確である。適切な表現手法を運用し、人を感動させるか説得することができる。言葉遣いが流暢で、筋が通っており、構成が厳密で、文字がきれいである。このレベルでは45点から50点で評価することができる。

第二レベルでは、

作文の内容は題目の要求にふさわしく、思想が健康で、内容が充実で、主旨が明確である。言葉遣いが流暢で、筋が通っており、構成が厳密で、文字がきれいである。このレベルでは38点から44点で評価することができる。

最後の第五レベルでは、

以下の状況があれば20点以下で評価する。1、作文の内容は題目の要求に合わない。2、作文の観点が明らかに間違っている。3、文章の筋道は通っていない。4、構成は乱雑である。

入学試験では、作文の内容は「積極的で、健康で」なければならないため、生徒が本当の考えやありのままの生活を書くのが難しいと思われる。したがって、試験の作文で虚構のものを書く、あるいは嘘をつく生徒がたくさんいる。教科書は生活を表現しようと強調しているが、試験の影響が大きい限り、教科書の努力は積極的な効果をもたらしていない。結局生徒が書いている作文、言い換えれば生徒に書かせようとしている作文は、20世紀初頭に要求されている、自分の感情を表す美しい文学的な散文に戻っている。

学者の指摘によると、これは教育現場にとっては非常に深刻な問題である。

なぜかという、そもそも「散文」は教えられるものではない。散文の特徴は二つある。それは内容面での独特な感受と形式面での独特な表現である。そのため、固定で学ばなければならない内容がなく、全員が達成しなければならない目標の設定もできない。教育はある程度で規則のあるものを教えるべきなもの、書かせようとしている散文は形も規則もないものである（王榮生，2014，p.9）。教師の指導によって逆にいい文章が書けなくなる。

このことと関わり、中国の小、中、高の語文授業では、作文に関する指導はほとんどないと言

われている。教科書の内容を見ればわかるように、中国では決められた題目で生徒に作文を書かせることはもっとも基本的な作文訓練である。書く前に、題目の意味をどのように読み取り、題目にふさわしい内容を見つけて書く指導、あるいは書いた後に教師がいい作文を提示し、生徒の作文を評価しコメントを付けることはやられている。しかし、どのように書くかに関する指導は、基本的に行われていない。授業で生徒に作文を書かせることがあるが、それはただ作文を書く時間を設けるといことで、教師は有効な指導を行っていない。

以上のことをまとめて言うと、中学校における作文指導の実態は以下の通りである。

- 1, 大きな試験（中間、期末試験など）における作文は進学試験の作文と同じように出題されている。
- 2, 授業外においても、作文を書く機会は多く設けられている。学校によって状況は違うが、宿題として毎週生徒に随筆を書かせることは多い。そして、中学校三年以上の学年において、毎月試験があり、そこで作文も課されている。
- 3, 現場での作文指導は系統性が欠けており、受験対策の内容が多く随意性が見られ、深刻な問題を抱えている。
- 4, 作文の指導方法は教師が授業で知識を教えることが多い。生徒はこうして作文能力を向上させることが難しい。
- 5, 実用性が目的ではなく、実際に生徒は作文を書くために作文を書いていることが多い。

注

- (1) 白話（はくわ）とは、中国語における書き言葉の一種。唐代に生まれ、宋・元・明・清と確立されてきた口語に接近した書き言葉のことをいう。「白話文」は、白話で書かれる文章である。
- (2) 日本の学習指導要領に相当するものである。
- (3) 文章が流暢で字句が適切であること。

【引用・参考文献】

王栄生 主編（2014）『写作教学教什麼』華東師範大学出版社

中華人民共和国教育部制定（2012）『義務教育語文課程標準（2011年版）』北京師範大学出版社

翻訳：鄭一葦